

# 岩手県の地域構造の変遷と都市造景農村造景の課題

岩手大学工学部 正会員 ○安藤 昭  
 岩手大学工学部 正会員 赤谷 隆一

## 1. まえがき

都市景観とそれをささえる都市機能、農村景観とそれをささえる農村機能の間には密接な関係がある。したがって市町村の景観すなわち地域景観を取り扱う際の最初の課題は地域機能の特性を明らかにしその特性にもとづいて地域をゾーニングすることである。ゾーニングされたゾーン内の市町村景観にはゾーン特有の地域機能に応じた共通の課題がみそんでいると考えられるからである。本研究は上述のような考えにもとづいて地域景観を取り扱う際の予想的研究として地域構造とその形成過程を実証的に追求し考察したものである。

## 2. 調査地域

調査地域は岩手県全域であり対象市町村は県内の62市町村(表-5)である。当地域には過疎市町村23(昭和56年現在)も含まれており地域環境の開発上多くの課題を含んでいるところである。

## 3. 解析の方法

解析手法は因子分析法(バリマックス法)を用いた。本解析に用いた基準指標は6指標の4変量であり(表-1)、資料は昭和35年、40年、45年、50年度の4時点におけるものである。

## 4. 解析結果および考察

解析に先だち構造ベクトルの相関行列(表-2)、寄与率の推移(表-3)、因子負荷量とその推移(表-4、昭和50年のみ添付)について検討が加えられ地域の成長発展形態を説明するための基本的因子は市町村の集積規模、市町村間の流動性、市町村の産業構造を示す因子であると解釈した。以上の考察を踏まえて因子得点による地域構造のパターン化とその形成過程を追求すると次のように示される。

① 第1因子(集積規模)-第2因子(流動性)による解析

県内62市町村を1、2因子の因子得点の時系列変化で示すと図1-1~1-4のごとく示される。流動性因子の変化に比べ集積規模の因子の変化が小さいのが同図の特徴となっている。また昭和50年(表-5)ではI象限に地域の中心の準中心的都市が、II象限に孤立的市町村が、III象限に都市周辺の衛星的町村が含まれるのに対し、IV象限には過疎(23)準過疎(3)市町村中21町村が中心を占め計24町村が含まれている。しかしほぼ4割の町村がこの象限にあって過疎を成している。この原因を究明すべく次の解析を試みた。

② 第3因子(集積規模)-第2因子(流動性)による解析

表1 解析のための基準指標

指標	番号	変 量	単位	注 意
人口	1	人口増加率	%	50年
	2	人口増加率	%	27
	3	人口増加率	%	28
	4	第一次産業人口比	%	29
	5	第二次産業人口比	%	30
	6	第三次産業人口比	%	31
	7	専従農	人	32
	8	専従人	人	33
	9	専従農	人	34
	10	専従人	人	35
	11	専従農	人	36
	12	専従人	人	37
	13	専従農	人	38
	14	専従人	人	39
	15	専従農	人	40
	16	専従人	人	41
	17	専従農	人	42
	18	専従人	人	43
	19	専従農	人	44
	20	専従人	人	45
	21	専従農	人	46
	22	専従人	人	47
	23	専従農	人	48
	24	専従人	人	49
	25	専従農	人	50

表2 構造ベクトルの相関行列

	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年
第一因子	1.000	1.000	1.000	1.000
第二因子	-0.122	-0.008	-0.008	-0.008
第三因子	0.219	-0.808	0.282	0.282
第一因子	0.947	-0.086	0.282	1.000
第二因子	-0.165	0.947	-0.008	-0.162
第三因子	0.201	0.032	0.833	0.232
第一因子	0.901	-0.176	0.183	0.688
第二因子	-0.079	0.966	0.063	-0.061
第三因子	0.182	-0.043	0.840	0.219
第一因子	0.910	-0.159	0.149	0.741
第二因子	0.005	0.951	0.180	0.005
第三因子	0.223	-0.050	0.851	0.236

表3 寄与率の推移

因子	全指標の寄与率とその累積寄与率			
	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年
第1	41.9	45.9	45.6	45.6
第2	17.7	63.4	47.7	61.3
第3	3.5	49.1	6.1	67.5
第4	3.3	72.6	2.9	70.8

表4 因子別因子負荷量

変 量	第一因子		第二因子		第三因子	
	定 量	負荷量	定 量	負荷量	定 量	負荷量
人口増加率	0.993	0.983	0.000	0.000	0.000	0.000
人口増加率	0.993	0.983	0.000	0.000	0.000	0.000
人口増加率	0.993	0.983	0.000	0.000	0.000	0.000
第一次産業人口比	0.898	0.898	0.000	0.000	0.000	0.000
第二次産業人口比	0.989	0.989	0.000	0.000	0.000	0.000
第三次産業人口比	0.987	0.987	0.000	0.000	0.000	0.000
専従農	0.986	0.986	0.000	0.000	0.000	0.000
専従人	0.985	0.985	0.000	0.000	0.000	0.000
専従農	0.984	0.984	0.000	0.000	0.000	0.000
専従人	0.983	0.983	0.000	0.000	0.000	0.000
専従農	0.974	0.974	0.000	0.000	0.000	0.000
専従人	0.969	0.969	0.000	0.000	0.000	0.000
専従農	0.967	0.967	0.000	0.000	0.000	0.000
専従人	0.949	0.949	0.000	0.000	0.000	0.000
専従農	0.949	0.949	0.000	0.000	0.000	0.000
専従人	0.949	0.949	0.000	0.000	0.000	0.000
第一次産業人口比	-0.583	-0.583	0.000	0.000	0.000	0.000

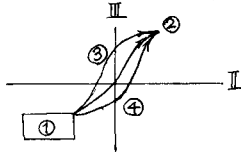
同様に図2-1~2-4と表-6は62市町村の3、2因子の因子得点の時系列変化と分布(昭和50年)を示す。産業構造、都市間の流動性を示す因子のいずれも時系列的変化が著しくしかもⅡ象限に含まれる地域は各年を通して非常に少ないのが特徴的である。

さきの解析でⅡ象限に含まれていた脱過疎の町村は本解析ではⅡ、Ⅲ象限にそれぞれ含まれているのが知られることから、それをその分布位置から考えて産業構造の高度化(第二次産業の定着)にもつく脱過疎と衛星的町村の外周に位置する潜在的衛星的町村にもつく脱過疎であることが考えられよう。さらにⅠ象限の市町村の分布から、衛星的市町村といえども第二次産業がたしかに定着してきていることが知られるのが興味深い。

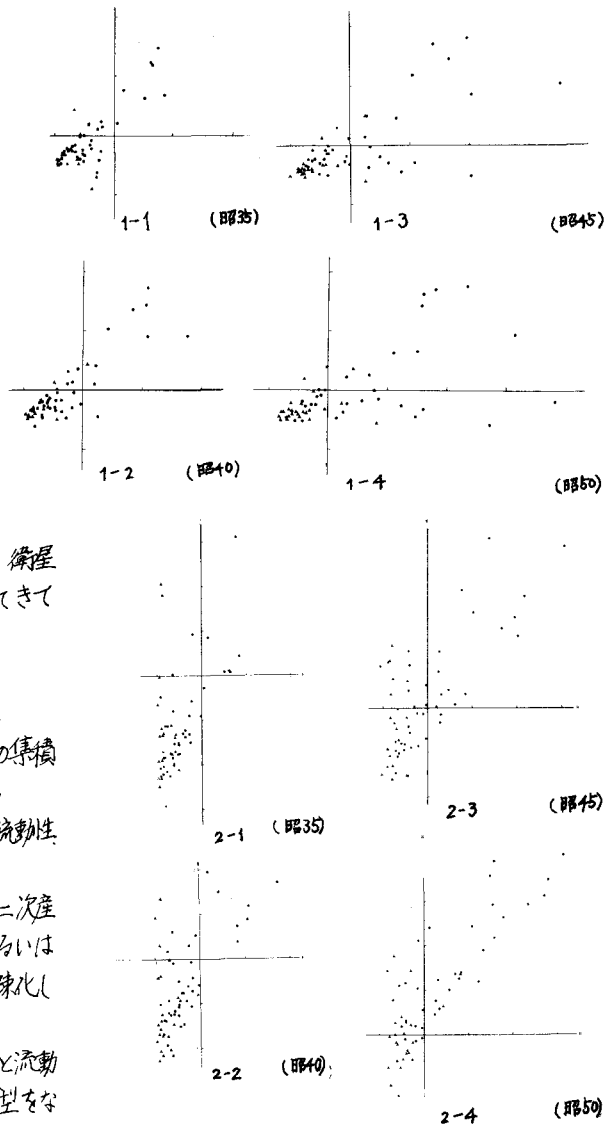
### 5. まとめ

以上の解析結果を要約すると次のようになる。

- ① 岩手県の地域形成の基本的変化は市町村の集積規模、流動性、産業構造の3因子で説明できる。
- ② 集積規模の継続的変化が緩慢なのに比べ流動性、産業構造のそれは著しく変化している。
- ③ 集積規模、流動性がともに小さくとも第二次産業を育成し産業構造の高度化を図った場合、あるいは潜在的、衛星的町村と考えられる場合には脱過疎化している。
- ④ 過疎、脱過疎の形態は基本的に産業構造と流動性の2因子でパターン化され図のような4つの型をなす。なお①は町村の停滞を示す。



⑤ 岩手県の地域区分は①都市機能の集積規模が大きく地域の核、準核となっており景観変化の著しい地域。②孤立の市町村となり景観の保存がなされている地域。③都市周辺の衛星的町村で都市と農村景観の混在している地域。④脱過疎地域で典型的な農村景観地域。⑤過疎地域で農村景観すべてに課題のみられる地域の5つに分けられる。



5 第1因子、第2因子による各集積に属する市町村(昭和50年)

象限	市	町	村	名
I	1	高山市	2	大船渡市
	3	水沢市	4	花巻市
	5	北上市	6	久慈市
	8	八戸市	9	陸前高田市
	10	釜石市	11	陸奥市
II	12	二戸市	13	盛岡市
	14	雫石町	15	伏見町
III	16	野田町	17	大畑町
	18	北村町	19	北田町
	20	大畑町	21	和賀町
	22	湯田町	23	鹿角町
	24	山形町	25	野田町
	26	和賀町	27	湯田町
	28	山形町	29	湯田町
	30	山形町	31	湯田町
	32	山形町	33	湯田町
	34	山形町	35	湯田町
IV	36	山形町	37	湯田町
	38	山形町	39	湯田町
	40	山形町	41	湯田町
	42	山形町	43	湯田町
	44	山形町	45	湯田町

26 第2因子、第3因子による各集積に属する市町村(昭和50年)

象限	市	町	村	名
I	1	宮古市	2	八幡平市
	3	米沢市	4	庄内市
	5	北上市	6	久慈市
	7	大畑町	8	湯田町
	9	山形町	10	湯田町
II	11	山形町	12	湯田町
	13	山形町	14	湯田町
	15	山形町	16	湯田町
	17	山形町	18	湯田町
	19	山形町	20	湯田町
	21	山形町	22	湯田町
	23	山形町	24	湯田町
	25	山形町	26	湯田町
	27	山形町	28	湯田町
	29	山形町	30	湯田町
III	31	山形町	32	湯田町
	33	山形町	34	湯田町
	35	山形町	36	湯田町
	37	山形町	38	湯田町
	39	山形町	40	湯田町
IV	41	山形町	42	湯田町
	43	山形町	44	湯田町
	45	山形町	46	湯田町
	47	山形町	48	湯田町
	49	山形町	50	湯田町